Englische Suiten

Johann Sebastian Bach J.S. バッハ 六つのイギリス組曲より

第 4 番 へ長調 BWV809

プレリュード (Prélude)

アルマンド (Allemande)

クーラント (Courante)

サラバンド (Sarabande)

メヌエット I (Menuet I)

メヌエット II (Menuet II)

ジーグ (Gigue)

解説付き

●イギリス組曲について

「イギリス組曲」は、「フランス組曲」「パルティータ」と共に、バッハの代表的な鍵盤楽器のための組曲です。いつ作曲されたか、正確なところは分かりませんが、「パルティータ」が最も遅くライブツィヒ時代 $<38\sim65$ 才 > (1723-1750) の作曲。「フランス組曲」と「イギリス組曲」は、ワイマール時代 $<23\sim32$ 才 > (1708-1717) の終わりからケーテン時代 $<32\sim38$ 才 > (1717-1723) にかけてまとめられたもので、作曲もその頃と考えられます。「イギリス組曲」は様式的に見て、「フランス組曲」より早い時期、1722 年(一説には 1715 年頃)の作品だろうと言われています。

名称の由来ははっきりしていませんが、「ある高貴なイギリス人のために書かれた」ためにイギリス組曲と呼ばれるようになったなどの説があります。

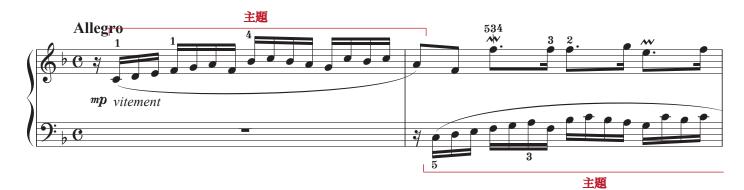
6つの組曲からなっており、それぞれ6つの曲を持っています。そして、6つの組曲とも「プレリュード」で始まり、そのあと、「アルマンド」「クーラント」「サラバンド」「ジーグ」が続き、「サラバンド」と「ジーグ」の間に第1番と第2番は「ブーレ」、第3番と第6番では「ガヴォット」、第4番では「メヌエット」、第5番は「パスピエ」が挿入されています。

●第4番 ヘ長調 BWV809

イギリス組曲は、第1番は A dur、第2番は a moll、第3番は g moll、第4番は F dur、第5番は e moll、第6番は d mollで書かれています。長調で書かれているのは、第1番と第4番のみです。第4番は、演奏時間が最も短く、明瞭で親しみやすい曲となっています。プレリュード - アルマンド - クーラント - サラバンド - 二つのメヌエット - ジーグ で構成されています。

プレリュード (Prélude)

バッハが、この曲には珍しくフランス語で「vitement」(速く)と指示しています。長大で活発なプレリュードです。16分音符の音階的な主題が応答されていますが、主題部分は、以下のように全てスラー表記致しました。



Englische Suiten Suite IV

